



自然観察

No. 88
2008
9月

ロゴマークをクリックすると協議会のホームページへとびます。

目次

・ 八木先生を偲ぶ	2
・ 第19回滝野の自然に親しむ集い 実施報告	3
・ アンケートまとめ	4
・ 参加者の声	5
・ 会計からのお願い	5
・ シリーズ 小さなカタクリの大きな秘密 第五回 保護保全の地域の取り組み	6
・ フィールドニュース 北斗市 余市町 稚内市 札幌市	8
・ ウォッチングレポート	10
・ 参加者の声	14
・ ウォッチングプラン	15
・ 事務局だより・理事会だより	16
・ 緊急連絡先他	16



モイワシャジン

2001/9/9 八剣山

八木健三先生を偲ぶ

会長 後藤言行

私が当協議会の理事の仕事をするようになったのは1998年のことです。

八木健三先生はお元気で、創立以来の会長を続けておられました。

私どもの協議会は、日本自然保護協会が北海道で実施した第1回目・1981年の受講生の「連絡協議会の組織を作りたい」の声を受けて、第4回・1984年ニセコの講習会で「北海道自然観察指導員連絡協議会」として発足したと聞いております。

この会の設立には、第1回目の羊蹄山麓の講習会以来、毎回講師を担当され、道の自然保護協会の会長もされていた八木先生のご尽力が大きいと思います。

私が理事になった時分には、先生はすでに道自然保護協会の会長は退いておられましたが、市民を対象にした「自然観察会」活動を「自然保護運動の底辺を広げる活動」と位置づけ、大変重視しておられました。

先生の「自然を守る」という意志と情熱はいささかの揺らぎもなく、柔和な物腰と話し方から、時として想像できないような激しい言葉や文章が生まれ、それが本質をついたもの・的を射たものであるがゆえに、行政側にとっては「やりにくい」相手だったと思います。

特に日高横断道路問題での、横路孝弘知事の背信行為に対する怒りは大きく、その曖昧さと妥協を許さない確固とした姿勢には感銘を受けました。

そのような先生の姿勢に共鳴して、私も「『止めよう日高横断道路』全国連絡会」の常任委員やその後の報告集の編集委員をするようになりました。

八木先生から教わったことは、それこそ岩石標本のクリーニングの仕方から自然保護まで、数えきれないほどたくさんあります。

また、ピンチを救っていただいたことも何度もあります。

特に強く記憶に残っていることは「『止めよう日高横断道路』全国連絡会」の代表委員会で、堀北海道知事の「凍結」発言を受けて「もう道路は止まった。全国連絡会はいまさら総会を開くまでのことはなく、代表委員会で解散を決めよう」という論議が起こったときでした。

「わざわざ総会を開くのはバカバカしい」などという意見が出るような雰囲気の中で、議長であった私は議論をまとめるのに苦労しておりましたが、代表委員の一人である八木先生が「民主主義の観点から言ってもキチンと総会を開いて解散を決めるのが当たり前」と発言されたのを契機に、
自然観察 88号 (2)

議論が正しい結論の方向に向かって動き出したと思っております。

先生には個人的にも随分とかわいがっていただきました。

私事にわたり恐縮ですが、先生は私の叔父とたぶん旧制松本高等学校の同級生で無二の親友同士でした。

私が理学部に進んだ時に、叔父から「八木君を紹介する」との話があったのですが断りました。

先生は当時、理学部の学部委員だったか教室委員だったかで、学生運動の活発な頃でしたから「ご迷惑をかけるといけないので」と思ったからでした。でも、秘密にしていたつもりですが、先生は親友の甥っ子が学部にいることをとっくに知っておられたようです。このことは後で聞かされました。

2000年に小樽でNACS-Jの指導員講習会が開催され、私の娘も受講したのですが、先生には孫娘のように面倒を見ていただきました。

古生物学者の井尻正二氏と漫画家の伊藤章夫氏の共著「漫画・生物の進化」シリーズの熱烈なファンだった娘は、漫画に登場する「山羊犬像」先生から親しくご指導を受けて大満悦であったようです。

「自然保護でメシが食えるのか」と凄まれた時代に比べれば、自然保護・環境保全に対する市民の意識も随分と変化してきたように思います。

しかし、私たちが油断すればいつでも逆流が巻き返してきます。

八木先生が情熱をかけて燃やし続けてきた火をしっかりと受け継いで、絶やすことなく守ってゆきたいと思います。

八木健三先生、どうぞ安らかにお眠りください。



在りし日の八木健三さん (写真竹林)

第19回 滝野の自然に親しむ集い 実施報告

畑中 嘉輔

今年度は夏休みに入って直後の日程だったせいか、参加人数が昨年のおよそ3分の1と少なく、子ども同士の交流の点からも物足りなかったがその分、指導員の配置が密になり全体に目の届く観察会になった。

自然観察ハイキングでは、予定のコースが工事のため使用できず、滝野すずらん公園に変更した。移動にはバスの増便を出してもらい、参加者の自家用車を利用しなくて済んだのはよかった。

実施日 2008年7月26日(土)～27日(日)
参加者 一般16名(子供7名、大人9名、6家族中リピーター3家族)
指導員11名 計27名

実施内容の反省

日程 準備

- ・夏休みが始まってから直後の日程では早すぎた。
- ・昨年と同じような広報活動をしたが、昨年の三分の一の参加者だった。

せせらぎウォッチング

- ・事前の草刈の状態がよかった。
- ・水生昆虫が少なくなったがニジマスが捕れて人気があった。

炊事(ポークカレー作り)

- ・ポークカレーのルーやご飯の量がちょうどよかった。
- ・一班の人数が13人と14人となり、少し多かった。

ナイトハイク

- ・森の中で指導員の懐中電灯がいつまでもついてた。打合せを徹底して本番では懐中電灯をやたらとつけないほうがよい。
- ・全体的におしゃべりもなく静かに実施できた。

星空ウォッチング

- ・最初はよく見えていたが、だんだん曇ってきてはっきりしなくなった。指導者の上手なお話で興味を持たせることができた。

懇親会

- ・子供の席をつくることで、交流ができてよかった。
- ・子ども達は、早めに部屋に戻っていた。

朝のつどい・朝の散歩・朝食

- ・ラジオ体操を6時15分頃に早めると、鳥の観察に都合が良い。
- ・学園側の朝食発注ミスでパンが来なかったが、おにぎりで間に合わせた。

自然観察ハイキング

- ・自然体験の豊かな親がいて子どもにいろいろ教えていた。
- ・人工のフィールドだからこそ昆虫を見つけるのに好都合な場所もあった。
- ・舗装された広い道路だったので、子ども達が自由に飛びまわり気をつかった。
- ・学園から公園までの1区間を中央バスの増便で移動できたのはよかった。

次年度に向けて

- ・夏休みが始まってから直後の日程では早すぎた。次年度は第一希望8月8・9日、第二希望8月1・2日、第三希望7月25・26日とする。
- ・指導員を誘うハガキを160枚出したが、あまり効果がみられないので、次年度は会報の中にチラシを入れることにして、ハガキは出さない。



せせらぎウォッチング (写真須田)

第19回滝野の自然に親しむ集い アンケートまとめ

【子ども用】 回答 6 / 7参加

- | | |
|--|---|
| <p>1. いちばんおもしろかったのは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せせらぎウッチング 3 ・加-ライス作り 3 ・星空ウッチング 1 <p>2. 発見したことやおどろいたことは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トリカブトが毒ということ 1 ・そのうちにベガが北極星になること 1 ・川に魚がいっぱいいた 1 ・クワガタがいた 1 ・飯盒でご飯を炊いたこと 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプファイ- 1 ・ナイトハイク 2 ・フィールドビンゴ 1 <p>3. 何かこまったことはありませんでしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかった 6 <p>4. わからなかったことは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋がわからなかった 1 ・なかった 5 <p>5. 何かいやなことがありましたか、それはどんなこと？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ともだちにいやなことをされた 1 ・なかった 5 <p>6. らいねんもさんかしたいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ参加したい 5 ・参加したくない 0 ・できたら参加したい 1 |
|--|---|



【おとな用】 回答 9 / 9参加

- | | |
|---|--|
| <p>1. 滝野の集いをどこで知りましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイレクトメール 4 ・前年も参加して知っていた 2 ・PRチラシ 2 ・おしゃべりからす 1 <p>2. 今まで自然観察会などの行事に参加したことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある 3 ・ない 6 <p>3. 2であると答えた方は、どのような行事ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の自然観察会 1 ・滝野の集い 2 <p>4. 滝野の集いで発見したことや驚いたことは何？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せせらぎで魚を取ったことや滝野の自然など知らないことを教えてもらった。 1 ・夜の散歩と星空を見たことなど経験がなかったので楽しかった。 1 ・滝野すずらん公園が整備され過ぎていて驚いた。 1 ・川遊びで初めてニジマス、カジカをつかまえたこと。 1 ・こんな小さな川にもニジマスがいたことに驚いた。 1 ・網で魚捕りをしたこと。 1 <p>5. 滝野の集いで、一番子どもに良いと感じたことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同生活の大切さがわかった。 1 ・他の子どもと一緒に参加できたこと。 1 ・草花の説明を詳しくしてもらったこと。 1 ・みんなで火をおこしカレーをおいしく食べたこと。 1 ・身近な自然を直にふれる良い機会であったこと。 1 ・せせらぎで魚を捕ったこと。 1 ・ふだん小学生と接する機会が殆どないので今回触れ合うことができてよかった。 1 ・もう少し子どもに厳しくするべきだ。 1 ・ゲームで得られない五感を通しての川遊び、炊事、ナイトウォークなどでみんながワイワイ楽しんだこと。 1 | <p>6. 宿泊設備についての感想は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもよかった。 3 ・古い小学校を有効に利用してよかった。 2 ・トイレをきれいにしてほしい。 1 ・古いけど趣があった。 1 ・キャンプより過ごしやすかった。 1 ・小学校では子どもがのびのびできてとてもよかった。 1 <p>7. その他、なんでもけっこうですから、参加した感想を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加するチャンスがあったらまた参加したい。 1 ・楽しかった。 1 ・とても有意義だった。 1 ・皆さんに親切に教えてもらってありがとうございました。 1 ・息子が最後まで何とか参加できてほっとしました。 1 ・ポーカカレー作りなどもう少し子どもが参加できたらよかった。 1 ・カレーライスは量がちょうど良く、バナナも冷たいうちに食べられてよかった。 1 ・ぜひ、秋、冬、来年の夏も参加できたらと思っています。 1 |
|---|--|



どんな虫がいるの (写真須田)

札幌市 滝野の集い ('08/ 7/26・27)

中央区 桑原 秀治

<いい思い出で夏休みのスタート>

「滝野の自然に親しむ集い」の最後にお別れの挨拶をした後、子供たちは「藤代さん」こと「しろ」と慕われたお兄さんと、名残惜しそうに、じゃれあいながら遊んでいました。

そして気がつくと、一人また一人と、すっかりお友達になった子供たちが、サヨナラをしていきました。車に向かう帰り道、なぜか急に大人しくなった小学一年生の子供の目には涙が滲んでいま

した。

そして、「来年もまた連れてきてね。」と私の目を見て、つぶやきました。「そうだね、本当に楽しかったね、来年もまた、お母さんと3人で来ようね。」と家路につきました。

スケジュールの最後にアンケートがあり、子供のアンケートに目をやると、何が一番楽しかったか？に、カレーライスを作って食べたこととありました。みんなでワイワイガヤガヤ笑顔で、すっかり満足でした。子供にいい思い出ができて、小学一年生の夏休みがスタートしました。

有り難うございました。



ホオジロがいるよ (写真須田)



おいしそう (写真須田)

会計からのお願い

会費の納入をお願いします

今年度、会費をまだ納めていない方には会報88号に郵便局の「払込取扱票」を同封してあります。

年会費は1,500円です。お早めに納入をお願いします。

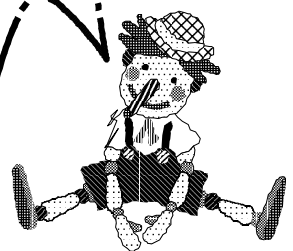
また、未納期間2年は3,000円、未納期間3年は4,500円となります。

払込取扱票を確認の上、振込みをお願いします。

★退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。
届けが出されるまで、会費をお支払いしていただきます。

★郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔



小さなカタクリの大きな秘密

第五回 保護・保全の地域の取り組み

北見市端野町歴史民俗資料館（たんのカタクリと森の会・自然観察指導員）

大橋 秀規

石川、本多両氏の調査報告に続き、地元北見市端野町の保護の取り組みについて紹介する。1989年、端野町立歴史民俗資料館（当時）にカタクリの群落があると報告されたのは、端野町役場の野草に詳しい職員からだった。^{注1} それまでは知る人ぞ知るという存在で秘密にされ、この職員も自力で山中を歩き回り発見したという。この報告により地元の植物研究家に照会したところ、大雪山以東にはほとんど分布がないという示唆を受けた。

このことから、専修大学北海道短期大学教授（当時）の依浩三氏にご相談したところ、石川氏とともに快くお引き受けいただき1990年から調査を開始した。途中、依氏が退任された時期に新たに本多氏が加わり現在に至っている。

その調査結果を元に端野における保護への取り組みがなされ、遅々とした歩みではあるが地元での保護の機運が高まり、成果を上げつつある。



調査風景 2005年5月（写真：竹林）

前回までの調査の紹介により、端野のカタクリ個体群の特性について報告されたが、当初から端野町立歴史民俗資料館が主体となり、調査、保護に努めていた。そして調査により端野のカタクリの特性がしだいに明らかになるに従い、町文化財の指定も考慮しつつ保護方を検討していった。

しかしながら町文化財保護委員会において、スムーズに指定が容認されたわけではない。1995年に教育委員会より文化財保護委員会へ文化財選定の諮問を受けたが、希少性は理解されたものの指定への隘路となったのは次の理由による。すべてが民有地であり、しかも非常に細かく分割され、その確保が困難である。北海道（日本）の東の分布限界に近いが、今後より東で発見される可能性がある。個体群が小さく、今後消滅する恐れがあるのではないかと。盗掘等のために所在地を明らかにしないで調査・保護していたことから町民の十分な理解を得られていない。^{注2} というのが大きな理由であった。

自然観察 88号（6）

教育委員会からの諮問に対して、指定は見送るものの調査の必要性を付帯意見として回答し、調査は以後も継続され、諮問に対しての答申も毎年先送りの状態となった。

しかし、その後の調査により他地域にはない端野のカタクリ個体群の特性が次第に明らかになり、また地域の理解を得るための観察会を端野自然愛好会の協力を得て毎年開催するとともに、前述した依、石川、本多、京都大学名誉教授である河野昭一氏などによる講演会を数年間実施したこと、さらに土地所有者の指定への理解が得られたことなどにより機が熟し、2005年に「カタクリ及び周囲の北方性落葉広葉樹林」として端野町指定文化財に指定された。

指定内容はカタクリのみならずカタクリの生育する落葉広葉樹林そのものが北見地方では減少し、生態系を保全する必要性も踏まえた上での意味合いも含めたものであった。調査を開始してから15年、初めて諮問を受けてからでも10年の歳月を要した。

この間指定のために上記以外でも後押しとなったのは、2003年に端野町出身の篤志家より200万円の寄付を受けて「カタクリ保護基金」が設けられ、その基金によって約1.6haを取得できたこと、2004年に地元土地所有者から1haの寄贈があったこと、また文化財保護委員会の委員が職を離れた立場で保護団体の設立準備に尽力し、同年に「たんのカタクリと森の会」が結成されたことなどであった。



設立講演会 2004年8月（写真：大橋）

しかし、指定以後も土地はほとんどが民有林であることから、開発、伐採、盗掘、山菜採取による踏み荒らし等の問題が解決したわけではなく、依然として危機にさらされていることに変わりはない。

なかった。文化財指定後にさらに約2.17haを基金によって取得できたものの、個体群とその生態系を維持するための周囲の山林保全には多くの資金を要し、現在の厳しい社会情勢では地方自治体においてもその体力は残されていなかった。^{注3}

「たんのカタクリと森の会」は、これらの問題を住民が主体となって取り組み、カタクリと周囲の自然環境の保全を図る活動を目的に2004年に結成され、設立には40名もの会員が町内外から参加した。^{注4}



カタクリ観察会 2008年5月 (写真:大橋)

以後、カタクリ個体群と周囲の山林を取得するための寄付を募り、資金造成のためのシールや絵葉書の作成・販売、調査・観察会への協力、カタクリ保護増殖のための笹刈りの実施、観察路を周回できるようにするための階段の設置、野草の通年開花調査、野草の写真展の実施、全国カタクリサミットへの参加などの活動を行っているが、肩肘張らずに負担とならない程度のゆっくりと長続きを目指した活動を目指している。

そのため土地取得の募金などは遅々として進まないが、それでも少しずつ蓄積され、近い将来にはある程度の面積を取得できるという展望が開けつつある。さらに年々端野のカタクリの知名度が上がり、カタクリと森の会の活動が徐々に実績を積み重ねることにより、郷土の貴重な自然財産としての地域の理解がしだいに深まり、新たに約2.2haの土地が市と会に寄贈された。そしてまだ少ない実績とはいえ、その活動が認められて北海道新聞野生生物基金から補助を受け、リーフレット、パンフレットを作成し、さらに北見市の補助も受け新たにカラーのリーフレットを作成できた。

これまで述べてきたように決して明るい状況ばかりではないが、曲がりなりにも保護のための方向性がある程



階段の増設 2007年9月 (写真:竹林)

度見込めるようになってきた。その要因としては、継続した調査 - 自然を相手にするときには長い年月が必要であるが、それを継続できたこと。地域の理解 - 行政はもとより地域住民の理解を得るために観察会・講演会等の活動を行ってきたこと。核となる人材 - 会の設立に関わった文化財保護委員、端野自然愛好会などの協力を得たこと、などが主な点に挙げられる。

継続性と地域の理解、核となる人材が揃ってこそその活動推進といえるが、端野のカタクリ保護活動も最初からこれらが一律に揃っていたわけではない。むしろ不足していたところを長い年月をかけて少しずつ補ってきた結果、展望が開けてきたものといえるだろう。

しかし将来に向けては、まだまだ課題が残されている。現在は地域の理解を得て少しずつ認知され、会員も旺盛に活動している。だが、これらはいわば善意によって行われていることであり、さらに社会環境が厳しくなったときに同様に保たれていくかということ、いささか危惧を抱かずにはいられない。現在の状況から保護・保全が即観光的、経済的に結びつくとは考えられず、カタクリ以外にも年間を通して利用者がこの「カタクリの森」をより楽しめ、自然についての理解を得ることができるようになることが、今後の保護・保全につながるのではないだろうか。同時に付帯効果として、地域が誇る環境資源また環境教育資源として将来にわたって永く愛しまれ引き継がれてゆく無二の財産となるようにしていかなければならない。

こうして考えると、まだまだ道半ばであり、課題が山積している。だが今後も長い展望を持ち、一つ一つを解決していくことが必要だろう。

現在も全国各地で様々な自然保護への取り組みが行われており、先進的な多くの事例があることと思うが、端野でのこれらの取り組みが一事例として少しでも役立つことを願うとともに、本紙に寄稿させていただいたことに感謝申し上げる。

最後に、俵、河野両先生のご指導、ご協力に、そして石川、本多両先生の真摯な調査に本紙を借りてお礼申し上げます。

注1 端野町は2006年3月に北見市、常呂町、留辺蘂町と合併。それに伴い館名も変更。

注2 については1993年に調査地が大量盗掘に遭い、一部調査区を放棄した。山菜採りも多く侵入するため、以後の開花期間中は土地所有者の了解を得て立入り禁止とし、監視員を配した。

注3 現在の取得面積は、市有地約5.55ha、たんのカタクリと森の会所有地1.42ha、合計約6.97ha。

注4 2007年度会員数は個人会員31名、ファミリー会員25名、賛助会員12名。

地域活性化のために

北斗市 安間 元
私は2006年自然観察指導員登録をしました。平素の自然観察活動としては、二つの所属山行グループと自然を親しむ会のなかで腕章をつけて、盗掘防止と自然観察の助言をしています。しかし自ら観察会を催すなど積極性に踏み出せないところで立ち止まっています。先輩の指導員の観察会に参加して、指導の見事さと見識の豊富さを拝見拝聴するにつけ、とても真似はできないと感心するとともに、怖じ気も感じます。

名簿の上で先輩とは、気後れから自己紹介もなく、相互の交流がないまま現在にいたっています。先般、研修の同期生と会ったおり、"一度指導員一同で話ができたらいいいですね"と言われ、思いを同じくしていた方が居られたことを思い出し、地域活動活性化にお役に立てばと投稿します。

それは、"地域の指導員のネットワークがあれば良いな"ということです。ネットワークを通して地域指導員同士の情報交換ができれば、纏まったもっと多くの成果が期待できるでしょう。

自然観察と啓発の仕方が各々の指導員に任されるのは良いのですが、各人それぞれ能力や事情があり、活動に限界があります。活動のなかで自分にできることで貢献したいこともあるはずです。その場合自分に何が出来るかということはネット情報の中から見いだすことができるでしょう。またお互いに人的交流に発展すれば、活動や実態を報告により、自身の向上だけでなく、地域の自然環境の把握と同時に人的活性化の促進が図られるでしょう。

ネットワークを通して地域の指導員の結集と協力で自然観察活動活性化から自然保護保全への道筋をつけていきたいところです。

余市の自然 シリパ岬

余市町 石村 恒夫
余市は、海と山に恵まれた自然の豊かな町である。この町に住みついて17年、ほぼ毎日ウォーキングを日課にしている。余市川の堤防や農道をいつもシリパ岬を眺めながら2時間ほど歩いている。



シリパ岬 背後が断崖、岩石海岸 (石村)

シリパ岬は、標高250メートルの断崖をなしている。岬付近は岩石海岸で、古平町にかけてシリパラインと言われ、観光と磯釣りの名所でもある。また、ソーラン節発祥の地であり、ニセコ積丹小樽海岸国定公園に属している。

海を背にした岬の斜面は緑の豊かな森で、昔から山菜の宝庫と言われている。ここには八十八ヶ所の石仏がある。春になると、歩道の周辺は雪どけを待っていたスプリングエフェメラルたちが、美しい花を見せてくれる。特にカタクリの群落は見事である。春は山菜採りの人、森林浴を楽しむ人たちが足を運ぶが、他の季節はひっそりとしている。いまは麓で、オオウバユリの生涯一回きりの花が咲いている。



カタクリの群落 (石村)

私の指導員としての活動は、小樽・後志グループでの自然観察会と、余市の自然散策サークルで40名ほどの仲間との自然観察会に参加していることである。何れの場合も、自然に親しむ、自然のしくみを知る、自然を守るの3点をモットーにして臨んでいる。(2008.7.15記)

海岸清掃

稚内市 高橋 美幸
昨年秋、講習会に参加させて頂き指導員の仲間入りをさせて頂きましたが、未だ観察会参加には至らず残念です。しかし仕事柄、北海道遺産に指定された宗谷丘陵のフットパス、サロベツ原生花園遊歩道散策、礼文島お花畑桃岩散策に、まさに毎日が自然観察会！?

たまたま地元FMラジオ放送で耳にした、翌日行うという稚内西海岸清掃、多忙時期に関わらずこれまた、たまたまの休日に飛び入り参加。自然観察指導員としての役割は果たせずとも、NACS - Jの会員として自然保護に一役とばかりに意気込んで出かけたのですが、あまりの光景に唖然。

流木や魚網、浮きならず、大型家電製品の不法投棄。テレビや冷蔵庫までありました。昔遊んだ砂浜の奥行きがかなり減少していたのも衝撃的。どれほどの海浜性植物達も行き場を失ったのでしょうか。

黙々と作業が進められる中、大型のゴミを撤去する為に用意されたであろう、これまた大型のブ

ルドーザーのエンジン音にかき消されそうな悲鳴、大きなタイヤの下敷きになりそうになっていたのは今が盛りとばかりに紫の花を咲かせていたハマエンドウ達。

冊子自然保護7・8月号で海岸植物群落の育成に悪影響を与えているのは、人の踏み付け、護岸工事、台風、ゴミ、廃棄物の投棄とありましたが、この清掃活動にも問題点を見た気がしました。

自分自身も反省。飛び入りではなく、計画実行された団体の皆さん（市民NPO、建設会社）と協力して次の海岸清掃につなげて行きたいと思った。新人自然観察指導員の一日でした。

おしどりの巣立ち～都市の巨木～

札幌市 小林 保則

この木で、オシドリの営巣を知ったのは4年前の5月だった。南区のM中学校のグラウンドの真ん中に聳え立つハルニレの木で、モモンガの観察を続けていたとき、偶然樹洞に入るオシドリを発見。巣立ちまでの観察が、'05年、'07年、今年と3年間、続いた。このハルニレの木に来るエゾモモンガとオシドリについては、NHKの「さわやか自然百景」と「ダーウィンが来た」で数回放映されている。以下の文章は、筆者が代表を務める「NPO法人真駒内芸術の森緑の回廊基金」で取り組んだ観察の記録を基に、個人的な雑感を加えて作成した。

このハルニレには、二つの大きな樹洞がある。'05年と'07年は、地上5mぐらい、今年では地上7mぐらいの樹洞にオシドリは営巣した。今年最初にオシドリを見た5月3日、この日が抱卵開始と思われる。抱卵期間中、雌は朝と夕方2回採餌に出かける。夕方の採餌には、平均、日の入り30分前に出巣し、日の入り30分後に帰巣している。出巣時グラウンドでは、サッカー部と野球部の練習の真っ最中。大きな怒声が飛び交う中、目立たないように飛び立っていく。「オシドリは雌だけが抱卵し、抱卵にはいると、つがい関係も解消される」と言われるが、ここの雌雄は巣立ちの1日前まで、採餌の時に一緒にいるところ、また巣立ちの5日前まで毎日のように、帰巣の時に、雌雄一緒に巣穴まで戻り、雄は巣穴の直前で、旋回して戻っていく姿が、目撃された。もっとも、帰巣の際に、雌と2羽の雄を目撃したこともある。

「オシドリは約1ヶ月の抱卵後、孵化し、孵化後一日ほど巣穴にいた後、巣から落下し、水域にはいる。孵化後は、雌は採餌には出かけない。」故に、夕方採餌のための出巣がない翌日早朝が、巣立ちの時である。最初の発見以来、30日目近づくとつれて、夕方の暗闇の中での帰巣の確認に

緊張感が増していく。6月1日夕方雌は採餌に出かけていないことが確認された。

6月2日が巣立ちの日、最大の試練が、オシドリの、親鳥と雛たちを待ち受ける。9時17分、親鳥が巣穴から舞い降りて、雛の巣立ちを促し、次々と12羽の雛が、飛び降りた。しかし、8羽目の雛は、ハシプトガラスに捕まえられた。このグラウンドには、中央のハルニレの他に校舎近くにも大きなハルニレがあり、その樹上に営巣中のハシプトガラスが、親鳥が舞い降りた直後、オシドリのいるハルニレに入り込み機を伺っていた。

さて、都会に住むオシドリには、自然の摂理の他に、都会の機能そのものが障害物となって彼らを襲う。彼らが向かう水辺は、真駒内公園を流れる真駒内川である。巣穴から飛び降りた親鳥と雛はまず50mのグラウンドを横切る。親鳥はかつて給餌に向かった方向に雛を誘導するが、そこには、グラウンドを囲むフェンスがある。そのフェンスの向こうには片側2車線の国道と公園の真ん中を貫く広い道道がある。「できるだけ手出しはしない」つもりではあるが、フェンス沿いに校門までの誘導、国道の横断時に、警察に通過車両の一時停止をお願いした。国道の横断時には、親鳥が飛び立つハプニングがあり、その際に雛の隊列が乱れ、隊列を離れた一羽がまたもガラスの餌食となってしまった。その後は公園内のトウヒ林とか生垣を上手に使いながら、ゆっくりと行進し、道道もクルマが途切れた隙に一気に渡りきり、11時20分真駒内川の水に浮かんだ。その後も、川の中ではゆっくりと穏やかに下流へと泳ぎながら移動して、13時豊平川の合流部でヨシの中に入り込み見えなくなった。

8月になってから、豊平川の22条橋近辺で、オシドリの目撃情報がある。多くの困難を乗り越えて、オシドリは健気に生きている。都会の学校、グラウンドのハルニレ、'04年の台風被害で、真駒内公園も含めて、真駒内川河畔にあったであろう樹洞のある木が倒れてしまい、仕方なくたどり着いた樹洞だったのだらうと思う。オシドリを間近に観ながら、彼らの不遇な環境に心痛める。



オシドリの親子（小林）

ウォッチングレポート

千歳市 紋別岳 '08年5月17日

天候 晴 掲載紙 道新、読売、苫小牧民報、千歳民報
<春の花>

晴れていましたが少し蒸し暑く、正午頃より入道雲が発達し雷があり、パラパラとききましたが、それ以上にはなりません。見晴らしもよく、春紅葉と言うのでしょうか、山が様々な色になっていました。

センダイムシクイ、エゾムシクイ、ヤブサメ、ツツドリ。オオカメノキの花、シラネアオイ、エンレイソウやオオバキスミレは例年になく、長い距離に沢山咲いていました。ハリギリ、オニグルミ、アオダモ、アカイタヤなど木々の芽吹きの時でした。

地球温暖化の問題にも触れることを忘れませんでした。

(谷口 勇五郎 記)

石狩市 濃昼山道 '08年5月17日

天候 晴 掲載紙 道新
<春の花を探して>

よく晴れて眼前の海も穏やかでした。4つのグループに分かれて、山道へ入りました。2005年に濃昼山道を守る会の皆さんの手でササが切り開かれ、開通して3年目になる山道で、いまやバスツアーも入っている人気のスポットです。

名残のニリンソウから始まって、オクエゾサイシン、エンレイソウが群落を見せてくれ、続いてマシケレイジンソウの列が所々に現れたあと、オオサクラソウが姿を現しました。

山道も峠に近づいて、新緑と春紅葉の入り混じる山腹と、波の輝く海が素晴らしい景観を作り、一方足元に



日本海の絶景を見る (若松)

はエゾタンポポ、ハクサンチドリ、フデリンドウと花が続きます。

下山路では、応援に来てくれた指導員がグループの前後について、安全を確保してくださったので、全員無事に帰着。帰りの路線バスを待つために現地の会館を借用できたことも、不時の対応や安全確保のために役立ったと思います。

(林 迪子 記)

旭川市 嵐山公園 '08年5月17日

天候 晴 掲載紙 道新
<晩春の嵐山>

晴天に恵まれ暖かい日でした。往路は鳥に詳しい方(野鳥の会)から、そのときそのときの鳴いていた鳥の名前を教えていただき、参加者は、鳥の声を聞いて鳥の名前をいくつか言えるようになりました。アオバツクの声が聞かれ、収穫だったという方もいました。

参加者の中に小学生もいましたが、脱皮したセミの抜け殻だけでなく、その抜け殻から出たセミも見つけ、大変喜んでいました。

復路は、草木に詳しい方の説明で、サワシバとアズキナシの葉脈は平行脈であることや、イタヤカエデの葉の特徴など、草木の見分け方を教えていただきました。植物の名前も、このように見分け方を知ること、より早く覚えることが出来ると思えました。鳥や草木を五感を使い深く味わうことが出来ました。

(原部 剛 記)

苫小牧市 錦大沼公園 '08年5月18日

天候 晴 掲載紙 朝日、苫小牧民報
<春の草花を見る>

晴れの日。ゆったりとした雰囲気の中での観察会となりました。

春の草花の代表であるフデリンドウ



出発前の挨拶 (豊澤)

ドウを見つけたり、ミヤマエンレイソウやタチツボスミレ、ツボスミレなどの花を楽しみました。芝生広場からは、樽前山を望みながら、春紅葉を参加者全員で眺めました。春の季語"山笑う"にふさわしい景色でした。

湿原では、ミツガシワの薄いピンクの蕾から真綿のような白い毛に覆われた真白い花びらが、あちこちで開き始めていました。参加者からは時間的にもものんびり出来て、昼食時間に情報交換も出来たという声もありました。

和気あいあいとした様子で、事故もなく、観察会を終えることが出来ました。

(富永 まゆみ 記)

伊達市 谷藤川溪谷 '08年5月24日

天候 晴 掲載紙 道新、その他

< 溪谷を歩き語り合う春 >

参加者が予想を超え、また林道であることから、豪雨後の道を想定できず、駐車場で難儀した。参加者の協力の問題なく終了したが、一つの教訓となった。

「200万年の息づき～谷藤川溪谷」のテーマ設定と12のガイドポイント、ガイドマップを用意したのは正解で、評判も良かった。この方針は今後も続けて行きたい。

今後の課題としては、第2回目を行う場合、ガイドポイントの別メニュー設定、ガイドマップの更なる補足などで魅力をアップさせ、参加者を定着させながら、指導員サポーターをお願いして、少人数グループの観察会として実行できればと思っています。

(安藤 忍 記)

北区 屯田防風林 '08年5月25日

天候 晴 掲載紙

< 屯田防風林の帰化植物 >

朝から雨が降り出して開催直前には、雨も上がり少し肌寒い観察会となりましたが、観察会前半は、植生(草本、樹木)、野鳥、後半は、帰化植物セイヨウタンポポと在来種エゾタンポポのモニタリング調査を、参加者の皆さんと一緒に行いました。

今年は例年より2週間ほど開花の時期が早く、防風林内でもその影響がありましたが、はじめに改良ポプラ、ドイツウヒ、イボタノキを観察。道路を横断して森の中へ、林内ではミヤマキンポウゲ、ズミ、オドリコソウ、マイヅルソウなどが見ごろでした。また、自生種と思われる珍しいシロヤナギ(ヤナギ科)の大木なども観察してもらいました。

モニタリング調査は、9ブロックを3班で分担してエゾタンポポ、セイヨウタンポポ、交雑種の株数を数えました。家族ごとに分かれた班は、最初少し戸惑い気味でしたが次第に馴れ、それぞれ役割分担するなど楽しそうでした。

調査結果は、総個体数349株に対して、エゾタンポポ33株、セイヨウタンポポ63株、交雑種253株の割合でした。

一般参加者の協力により調査した結果が、エゾタンポポの保護に生かせるよう今後も調査を継続してゆこうと思っています。

(池田 政明 記)

苫小牧市 ウトナイ湖周辺 '08年6月 1日

天候 雨 掲載紙 道新、苫小牧民報、千歳民報

< 湖畔へのお散歩 >

予報通りの雨の中、参加者は少なく、ごちんまりとした観察会でした。

虫は見られず、鳥の声は時々聞こえるものの、姿はチラホラ見られる程度でした。

植物のほうはそれなりの観察が出来ました。ミヤマザクラは満開、エゾノコリンゴは咲き始めたばかり、ベニバナイチヤクソウはまだ蕾、シロスマイレ・スマイレが少し咲いていました。植物の受精の仕組みや、花のつき方など、普段よりじっくり観察できた様に思います。

(谷口 勇五郎 記)

当別町 医療大学薬草園 '08年6月 7日

天候 雨 掲載紙

< 薬草園や温室の花 >

雨がぱらつく天候でした。医療大学薬草園担当の堀田清先生と北方系生態観察園の植物に詳しい内山恭子さんが当日の主たるガイドで、指導員は後ろから時々声を出す程度。お二人のお話楽しく耳を傾けながらの散策になりました。

春真先に咲いたカタクリやエゾエンゴサクは実を結び、此处ではシウリザクラ、コクワが咲き始め、サルメンエビネ、ノビネチドリ、ベニバナイチヤクソウが花盛り。堀田先生は植物の薬効などを紹介しながら、時々茎や木の葉を折り取って匂いを嗅がせてくださいました。

斜面の法面には、シダ類も豊富で図鑑をめくりながら同定している参加者も見られました。丘を一巡してきた後、温室に入りパッションフルーツ、コーヒーの実など熱帯の珍しい植物も見せていただきました。

時々雨にあたりましたが、ユーモアのあるお話で、笑顔が途切れない観察会でした。

(林 迪子 記)

清田区 平岡公園 '08年6月 8日

天候 晴 掲載紙

< 原っぱに造った湿原の変わる様子を観察する >

雨も上がり、遠くにヨサコイソーランの音楽が聞こえる中、観察会がスタートしました。

出現順にミヤマガマズミ、ミズキ、クゲヌマラン、サワギキョウ、ジンヨウイチヤクソウ、ウメガサソウ、コイチヤクソウ、ササバギンラン。湿原に降りて、サワフタギ、ツクバネソウ、オオカサスゲ、ツリバナ、ワスレナグサ、モイワサナエ、オオカワトンボ、コンロンソウ、ニホンカナヘビ。

湿地を抜け、四阿で昼食をとり人工湿地へ、ヤナギトラノオ、サギスゲ。下見時に見られたオオ

ルリ、カワセミは残念ながら見られませんでした。
参加者の皆と会話が出来、全員で同じ物を観察
できました。久しぶりに良い観察会でした。
(佐藤 佑一 記)

豊平区 森林総研 '08年6月 8日

天候 晴 掲載紙
<初夏の森林総研を散策しよう>
今年はコースを変えて、樹木園を中心に観察会
を行いました。此処の園内は、およそ三分の一が
外来種、三分の二が国内種です。



マツの花を探す (須田)

入口のあたりには何種類ものマツがあります。みんなでマツの雄花、雌花探しをしました。最初は見つけられなかったのですが、後でだんだん要領がわかってきました。ケヤキの木のところで虫こぶを観察しました。中にはアブラムシ(ケヤキフシアブラムシ)の姿のまま何匹も動き回っています。

クロミサンザシは以前にエゾシロチョウの大発生で丸坊主になった木です。今年はサナギを探したのですが、やっと10匹ほどのサナギの集団を見つけることが出来ました。



エゾシロチョウさなぎ(須田)

(畑中 嘉輔 記)

小樽市 長橋なえぼ公園 '08年6月14日

天候 晴 掲載紙
<初夏のなえぼ公園(杖・車椅子利用者に対応)>
初めての試みで車椅子の方にも自然に親しんで戴けたらとの思いで観察会を開いたが、車椅子の方の申し込みはありませんでした。
平坦な園内を散歩し、新緑を楽しんできました。園内を歩きながら、キジバトの鳴き声を聞き、ミズバショウの大きく育った葉、タニウツギの花、ホオノキやトチノキの大木、樹齢100年以上のブナの木などを観察しました。
小樽に残る歴史的な自然公園を、先人達の努力に感謝。春の桜、夏の緑、秋の紅葉を楽しみにしています。

(本間 正一 記)

北見市 たんのカタクリの森 '08年6月28日

天候 晴 掲載紙 経済の伝書鳩
<カタクリの実と初夏の花たち>
今年は、春の開花が早かったのに、実が開く時期が一週間ほど遅い。6月の天候が影響しているのかもしれない。種子を取りに来るアリは、昨年の写真でがまんしてもらおう。

カタクリの実を始め、森に咲いている花をゆっくりと観察。ニホンカワトンボやキバシリに会うこともでき



ニホンカワトンボ (大橋)

た。カタクリが森の他の植物や動物とともにある良い環境を感じてもらえたと思う。

咲いていた花、ヤマブキシヨウマ、クサフジ、キツネノボタン、エゾタツナミソウ、クリンソウ(6段目)、サイハイラン、フタリシズカ、クサノオウ、ツルアジサイ、エゾノシモツケソウ、コンロンソウ、オニタビラコ、エゾムグラ、ヒロハトンボソウ、オオダイコンソウ、ギョウジャニンニク。

(竹林 正昭 記)

苫小牧市 勇払弁天沼周辺 '08年7月13日

天候 晴 掲載紙
<勇払ネイチャーウォーク>
きのうまでのひんやりした曇り空もどこかへいき、暑い一日となりました。勇払海岸沿いのゲートから弁天沼まで片道約3km、ゆっくり観察しながら歩いていきます。

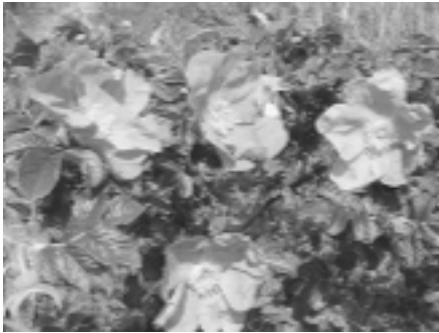
今回は日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリとの共同主催で、サンクチュアリの勇払保全プロジェクトも紹介していただきながらの行程です。勇払弁天地区は戦後の農業入植で開墾されたのち、国の開発計画により工業開発地帯として産業誘致がされましたが、時代の流れで開発はすすんでいません。残された原野にはラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖に匹敵する自然環境が残り、また農地も遷移で原野にのみこまれつつある現在、絶滅のおそれのある鳥類の生息地として重要な役割を果たしています。ただし、開発がスローペースになったとはいえ、企業の農地利用など、原野は年々消えています。

そんな野鳥の会レンジャーの解説にうなずきながら、つぎつぎと目に入る野鳥や草花に参加者のみなさんは歓声をあげていました。

観察中の様子やアンケートでも、工業地帯のまんなかにこんな自然がまだ残っていたのか、豊かなこの自然環境を残すためにはどうしたらいいか、など興味をふかめて頂けたようです。

最後に、日陰のないコースなので、気温があがると参加者の体調が心配なのが今後の課題とと思いました。

植物はハマナス、チシマフウロ、エゾカワラナデシコ、エゾノレンリソウ、ノハナショウブ、外来種のクマノアシツメクサ、弁天



ハマナス (遠山)

沼ではコウホネが観察できました。

野鳥では稀少種になりつつあるアカモズ、チュウヒも観察でき、ノビタキ、オオジシギなど草原の鳥も見られました。

(遠山 あづさ 記)

清田区 平岡公園 '08年7月13日

天候 晴 掲載紙

<原っぱに造った湿原の変わる様子を観察する>

暑い日差しの中スタートです。東区、西区以外の市内各区から参加いただきました。

午前中は山林側からオニノヤガラ、ウメガサソウ、シャクジョウソウ、ギンリョウソウ、オオバボダイジュ、イワガラミ、アクシバ、ナツハゼ、ツルアジサイ、ベニバナイチヤクソウ、イチヤクソウ。途中、炭焼き窯の跡を見ていただく。

昼食後は人工湿地から沢の方へノハナショウブ、エゾミソハギ、フトイ、ホソバヨツバムグラ、コバノギボウシ、オニシモツケ。残念ながらカワセミには逢えませんでした。脱皮して羽根を乾かしているオニヤンマをじっくり見ていただく。

特に大量の若い実をつけたコクワとヤマブドウには歓声が上がりました。楽しい一日を有難う。

(佐藤 佑一 記)

豊平区 精進川 '08年7月20日

天候 曇 掲載紙

<川の生き物達 (親子・子ども特集)>

湿度の高い、どんよりとした曇り空の観察会となりました。豊中公園は、何も無いはらっぱの中に、近年遊具などが置かれて、年々様変わりしてきました。その公園内を、クワとサクラの実を食べ比べたり、オニグルミとニセアカシアの小葉の数を数えました。

地面に落ちていた昨年と今年の実や殻を拾って観察。イロハモミジの実、タンポポの綿毛を飛ばして、種の運ばれかたなどを、クイズ形式で学びました。

精進川の名前の由来、歴史の話聞いた後、川の中の生き物達、イバラトミヨ、フクドジョウ、プラナリア、カワニナ、ヨコエビ、ミズムシなどを観察しました。

2年前の観察会と比べて、種類や魚の数が少なくなっているような気がしました。

(澤田 久美子 記)

手稲区 手稲山 '08年8月9日

天候 晴 掲載紙

<山頂までゆったり山歩>

ほど良い秋風の中、ロープウェイ山麓駅を出発。休憩のたびに振り返り、景色に歓声をあげ、森林浴気分を満喫しました。

見ごろの花は、エゾアジサイ、ノリウツギ、ヤナギラン、キツリフネ、ヨツバヒヨドリ、ツルニンジン、ヤマハハコなどでした。また、飛び入りのトノサマバッタもじっくり観察。

山頂では、遠く羊蹄山、樽前山、恵庭岳などを見ながらの昼食となった。手の届くような流れる大きな雲、



山頂で (高田)

すみきった青空、アンテナ塔を通り抜ける風の音など、五感を使ったなごやかな観察会でした。

(高田 敏文 記)

清田区 平岡公園 '08年8月10日

天候 晴 掲載紙

<原っぱに造った湿原の変わる様子を観察する>

連日の暑さの中、花の少ない時期ですが、タラ、ハリギリ、ヌルデ、ホザキシモツケ、エゾミソハギ、サジオモダカ、モウセンゴケ、ヒツジグサ、クサフジ、ヤブガラシなどの花。

大豊作のヤマブドウ、サルナシ、シナノキ、とオオバボダイジュの実。

ルリボシヤンマなど7種のトンボ、ミヤマカラスアゲハ、オオヒカゲなどの蝶。

受けの良かった話として、モウセンゴケの花の咲く順番とイトトンボの交接と産卵を見ながらの説明でした。

(佐藤 佑一 記)



北見市 たんのかたくりの森 ('08/ 6/28)

美幌町 中村 六美

<カタクリの実観察会>

カタクリの実の観察会、とてもおもしろかったです。花ならば自分で見つけられるであろうけれども、実は教えていただかなければまず、見つけられないものでした。今回参加できたことで、今後どこかであの実を見れば、カタクリと判るようになったことはとてもうれしいです。

カタクリは同じ様子の地面でも、針葉樹の下にはなく、落葉樹の下だけにありました。その不思議を実際に見て、一つの生命体が存在するにはそのまわりの絶妙で完璧なバランスがあつてのことなのだと実感させられました。

その場所の空気を感じながら個々の植物を観るのはとても楽しく、色々説明して下さるので勉強にもなりました。

これからもこういった機会を重ねて五感を磨いて自然を楽しみたいと思います。

ありがとうございました。



カタクリの森 6/28 (写真:大橋)

苫小牧市 勇払弁天沼周辺 ('08/ 7/13)

千歳市 大沼 多恵子

<勇払ネイチャーウォークに参加して>

今回は、子供に自然を身近に感じてもらう機会をつくることを目的として、また、普段入ることのない弁天沼周辺を散策できるということで参加させていただきました。

当日は、子供がネイチャーウォークのコースを完歩できるか、また、興味を持つかどうか不安でしたが、実際は、花や野鳥に興味をもって楽しんで観察していました。また、レンジャーの方々が花や野鳥について、とても面白く説明していただいたので子供が大変興味深くお話を聞いていました

自然観察 88号 (14)

た。知らないことがあまりにも多く、良い学習の機会になりました。

苫東にある弁天沼地区周辺には、ウトナイ湖でも絶滅している希少鳥類が棲息しているにもかかわらず、工業用地として開発される恐れもあり、自然保護関係の方々が現在の湿地をできる限り広い面積で遊水地として残し、さらに猟銃使用や土地造成を規制する鳥獣保護区特別保護地区にするよう求めていることを身近に感じました。このことを子供や身近な方々に伝えていきたいと思えます。自然・環境の保全と地域開発を考える上で今回参加したことを意義深く感じています。



弁天沼 6/28 (写真:遠山)

清田区 平岡公園 ('08/ 8/10)

清田区 服部 照子

<自然の全てを知りたい>

ここ平岡公園は、入り口すぐ下に湿地帯があり、サワギキョウが咲き、前回、羽化を6匹も見ることが出来たオニヤンマが、今回、低空飛行で私達を出迎えてくれました。

林の中には、初めてみるタマゴダケが、白い卵のような中から真っ赤なキノコが頭を出していて本当に驚きました。

雨竜沼を見本に造られたという人口湿地にはルリボシヤンマが飛び、エゾミソハギが咲き、モウセンゴケが小さな花をつけ、水カマキリにも出会いました。池にはカワセミもやって来ます。この公園は、バラエティに富んでおります。

観察会に参加すること3年。野の花のみ知りたかった60代の私。今では小学低学年の男児のよう。

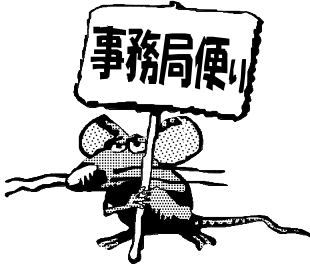
自然の全てを知りたいのです。これも毎回、感動と沢山の知識を与えて下さる指導員の方々のおかげと感謝しております。これからも新しい出会いを求めて参加したいです。

2008年度 観 察 会 ('08年9月20日 ~ '08年11月9日)

※下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観 察 地	集 合 場 所 ・ 時 刻	交 通 機 関	下 見	連 絡 先
9月20日 (土)	「野幌森林公園(大沢口)観察会 (親子・子供特集) 森に秋を探しに行こう	江別市 野幌森林公園 大沢口	野幌森林公園大沢口駐車場 10:00集合 ~ 12:30解散	JRバス新札幌駅発 循環バス83番, JR 9/13(土) 森林公園駅 徒歩8分国道12号線開拓 の村入口バス停 循環バス, 「文教台 南町下車」徒歩10分		横山武彦 011-387-4960
9月21日 (日)	もっともって藻岩山 藻岩山散策(旭山記念公園~慈恵 会)	札幌市中央区~ 南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合 ~ 14:00慈恵会駐車場で解 散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園バスターミナ ル発, JRバス「旭山記念公園」行き		山形誠一 011-551-5481
9月21日 (日)	「大谷地の森」観察会 秋を探そう	札幌市厚別区 大谷地の森公園	地下鉄東西線大谷地駅1階バスターミ ナル 10:00集合 ~ 12:00解散	地下鉄東西線 大谷地駅下車		澤田久美子 011-891-1962
10月4日 (土)	「目名川」観察会 サケの遡上・[生と死のドラマを 見つめよう]	蘭越町 尻別川・目名川 合流点付近	蘭越町・名駒 道道267号線 目名川橋付近の駐車場 10:30集合 ~ 12:00解散 長靴があれば便利	JR札幌駅7:13発 小樽駅8:07発 昆 布駅9:58着 昆布~名駒の送迎バスを予定。 要問合せ。		大表章二 0136-57-5610
10月5日 (日)	モエレ沼公園の秋を散策しよう	札幌市東区 モエレ沼公園	モエレ沼公園西口駐車場 9:40集合 ~ 12:00解散	地下鉄南北線南34条駅より中央バス 9:05分発「東76中沼小学校通」行 地下鉄東豊線新道東駅より中央バス 9:12分発「東76中沼小学校通」行 いずれも「モエレ沼公園西口」下車	当日 9:00~	須田 節 011-752-7217
10月5日 (日)	「秋の錦大沼」観察会 キノコに学ぶ	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合 9:00 ~ 14:00解散	自家用車のみ 日程未定ですが参加希望者は 連絡先指導員へお問合せください。 あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参		豊沢勝弘 0144-74-0572
10月12日 (日)	「手話で楽しむ」観察会 すばらしい自然の残る青葉公園 で、聴覚障害者と一緒に「手話 による観察会」をします。 手話に興味のある方大歓迎	千歳市 林東(りんとう) 公園	林東公園駐車場 9:30集合 ~ 12:30解散 必要に応じて昼食持参	J R 千歳駅前、千歳バス8:50発「支 笏湖行」 「大和団地入り口」下車 駐車場有		神能俊行 0123-24-5946 (faxのみ) 中川晃 0123-28-8927
10月18日 (土)	季節による植物の変化を楽しも う秋の嵐山	旭川市嵐山公園	嵐山公園センター駐車場(北邦野草 園隣接) 9:30集合 ~ 11:30解散 センター手前の橋の下河川敷(JR旭 川駅から北西に約7km 約20分) 小雨決行	「旭川電気軌道バス」西武旭川店A館 乗り場1433番8:08発 「北邦野草園」8:25下車 3番8:33発「北邦野草園」8:50下車 下車後バス停傍の坂を登り徒歩約15分	10/11(土)	原部 剛 080-6092-4347 (問合せ19時以 降)
10月18日 (土)	「利根別自然休養林」観察会 秋の植物観察	岩見沢市 利根別(とねべ つ)自然休養林	利根別自然休養林の大正池入口駐車 場 9:00集合 ~ 12:00解散	JR中央バス高速岩見沢号で、岩見沢 駅バスターミナルへ9時まで、バス 「緑が丘・鉄北線」か、「日の出南線 東高経由」教大前下車、徒歩15分。		北本 毅 0126-23-0128
10月19日 (日)	「秋の円山公園」観察会 木の実と紅葉	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待 合所 10:00集合 ~ 12:00解散	地下鉄東西線 円山公園駅下車		山形誠一 011-551-5481
10月26日 (日)	「モエレ沼公園」観察会 渡り前集結の鳥たち	札幌市東区 モエレ沼公園	モエレ沼公園 東口駐車場 9:40集合 ~ 12:00解散 防寒の用意 あれば双眼鏡	地下鉄東豊線 環状通東駅 9:10発市営 バス「札苗69番」モエレ沼公園入口下 車		須田 節 011-752-7217
10月26日 (日)	「晩秋のウトナイ湖」 ハクチョウ(渡り鳥)の観察と 森のお散歩	苫小牧市 ウトナイ湖周辺	環境省ウトナイ湖保護センター前 9:30集合 ~ 12:00解散・必要に応じて 昼食持参	新千歳空港9:15発道南バス 「苫小牧」行き乗車「ウトナイ湖」下 車 無料駐車場有	10/18(土)	谷口勇五郎 0144-73-8912 宮本健市 0123-28-4720
11月1日 (土)	「長橋なえぼ公園」観察会 冬を迎える生き物たちの不思議 な生活	小樽市 長橋なえぼ公園	なえぼ公園「森の自然館」 9:00集合 ~ 12:00解散 防寒着を用意	小樽駅前 中央バス「塩谷」「オタモ イ・幸」行き乗車, 「苗圃通り」下 車, 徒歩1分		後藤言行 0134-29-3338
11月2日 (日)	「秋の北大構内」観察会 エルムの紅葉を楽しもう	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学正門 10:00集合 ~ 12:00解散	J R 札幌駅北口より徒歩5分	当日 9:00~	須田 節 011-752-7217
11月9日 (日)	「初冬の錦大沼」観察会 紅葉と沼と木の実	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合 9:00 ~ 14:00解散 昼食持参・雨天原則決行・強風日中 止。	自家用車のみ あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参	11/8(土) 9:00 ~ 14:00	豊沢勝弘 0144-74-0572

【事務局だより】



☆ <訃報のお知らせ>

当会名誉会長の八木健三さんが、'08年7月18日ご逝去されました。
お別れ会 '08年9月6日(土)正午～午後1時30分(開場午前11時30分) 平服。
札幌後楽園ホテル地下2階ピアリッジホール(札幌市中央区大通西8)

☆ 2008年自然観察指導員講習会が終了しました。北海道自然観察協議会に入会された方については、同封の会員動向をご覧ください。開催する行事などへのお誘いをお願いいたします。

- ☆ 来年'09年2月1日に救急救命講習会を実施します。多数の参加をお願いします。詳細は次号でご案内します。
- ☆ 保険の取扱代理店が、アスカ・リスクマネジメントに変更になりました。事故発生時緊急連絡先は下記をご参照下さい。
- ☆ 観察会の報告をホームページに掲載しております。観察会の様子や出会った植物・動物の写真も一緒に載せております。各観察会2～3枚でも印象が違いますのでぜひ、お寄せください。
E-mail hzx01204@nifty.com (HP担当 竹林)へお願いします。
- ☆ 観察会追加・変更の連絡は、観察部 山形、広報 岡田、事務局 武田、HP担当 竹林へお願いします。

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

- ☆ 第2回理事会 '08/ 6/4 札幌エルプラザ研修室
 - ・ 総会反省
 - ・ 協議会申し合わせ事項
 - ・ 各部の連絡
 - ・ 観察会予定
 - ・ 滝野実行委員会からの連絡 日程：7/26(土)～27(日)
 - ・ 所沢の高校生と野幌の森を歩こう実行委員会連絡 実施日：9/26(金)
 - ・ NACS-J自然観察指導員講習会、7/11(金)～13(日)。
- ☆ 第3回理事会 '08/ 8/5 札幌エルプラザ環境研修室
 - ・ 滝野の集い報告
 - ・ 全道研修会忍路海岸8/23(土)～24(日) 講師変更 研修内容一部変更
 - ・ 地方研修会Ⅲ追加 9/6(土) 旭川嵐山 「虫こぶのふしぎな世界を知ろう」
 - ・ 研修部の体制 当面会長がセンターとなり次年度への準備をする
 - ・ 所沢の高校生と野幌の森を歩こう9/26(金)について ボランティアガイドへの協力要請等
 - ・ NACS-J自然観察指導員講習会7/11(金)～13(日)報告
 - ・ 救急救命講習会 かでる2・7 '09/2/1に実施予定 ・ 協議会申し合わせ事項

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
		-----> 会 計	畑中 嘉輔	札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
				/Fax 011-581-5439
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	02770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料
		-----> 観察会担当会計	引地 輝代子	札幌市北区篠路2条5丁目8-25
				/Fax 011-773-2170
観察会報告書・資料は	----->	観 察 部	山形 誠一	札幌市中央区双子山1丁目12-14
				011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部	大表 章二	磯谷郡蘭越町蘭越町852-23
				0136-57-5610
退会、住所変更の連絡他は	----->	事 務 局	武田 治子	札幌市北区北34条西9丁目1-11グランドパレス103号
事故発生等緊急時は				/Fax 011-707-5621 E-mail haru_t@nyc.odn.ne.jp
				アスカ・リスクマネジメント 011-873-2655 (日・祝祭日は休み)
投稿や原稿は	----->	編 集 部	竹林 正昭	北見市端野町3区378-3
		HP担当		/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察 2008年 9月 15日 / 第88号 年 4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
発 行 北海道自然観察協議会
編 集 北海道自然観察協議会編集部